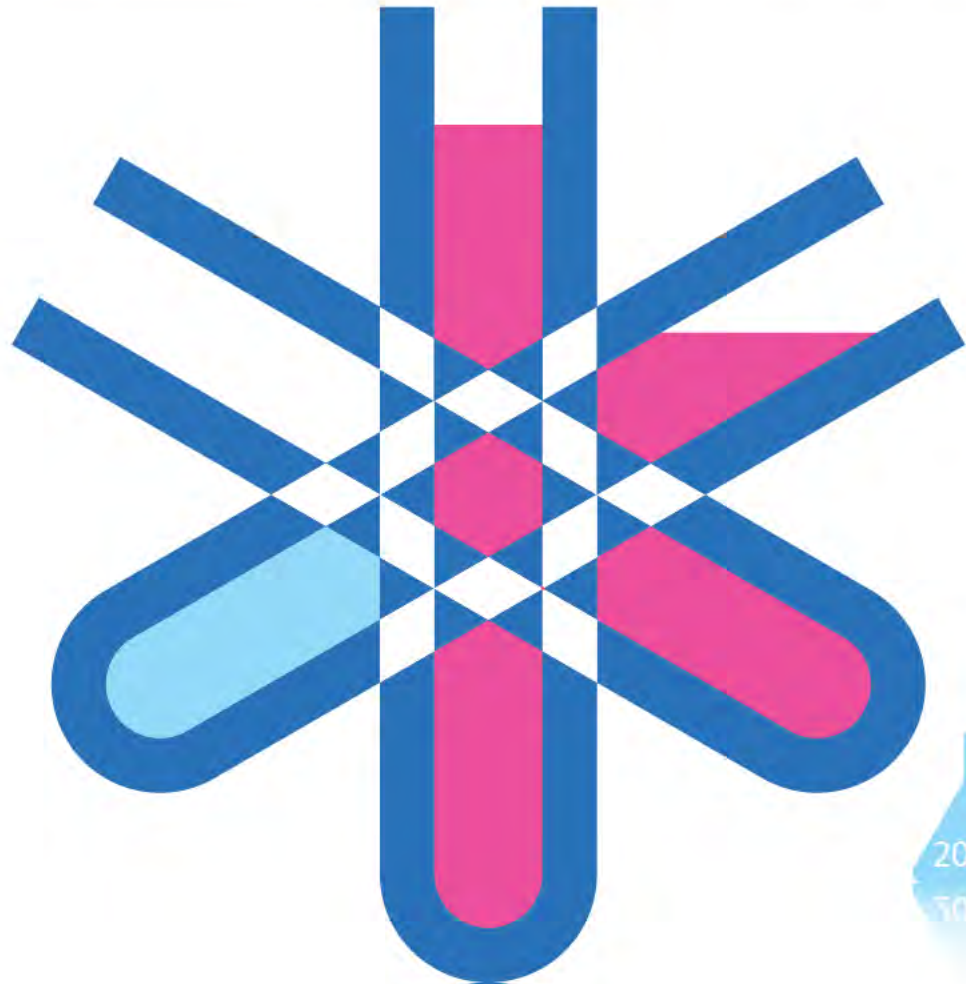


検査情報月報



2017
2月

横浜市衛生研究所

平成29年2月号 目次

【トピックス】

年末一斉食品収去検査	1
魚介類中のPCB検査	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 1月	4
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	8
---------------------	---

年末一斉食品収去検査

年末食品等一斉点検事業は厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部長から出された「平成28年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」の通知に基づき、食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬季における食中毒の防止を図るとともに、積極的に食品衛生の向上を図る見地から全国一斉に実施されました。

年末一斉点検の期間中に食品専門監視班及び福祉保健センターの収去により搬入された検体について、当所が行った食品添加物検査及び細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された158検体(輸入品83検体、国産品75検体)の食品について、菓子類、かん詰・びん詰食品などを重点的に、保存料、着色料、酸化防止剤など2,100項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、「清涼飲料水」に分類されるゼリー飲料1検体から表示にないパラオキシ安息香酸(保存料)を検出し、この1検体が食品衛生法違反(表示違反)でした。その他の検体はいずれも食品衛生法に適合していました。

表1 食品添加物検査

平成28年11～12月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目					
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤
魚介類加工品	15		221	42	159	10	5	1	4
肉卵類及びその加工品	24		332	72	223	4	9		24
乳製品	6		18	18					
穀類及びその加工品	1		1					1	
野菜類・果実及びその加工品	20		318	45	229	35	5	4	
菓子類	34		441	66	269	45	61		
清涼飲料水	9	1	185	81	85	18		1	
酒精飲料	13		134	36	84	2	11	1	
かん詰・びん詰食品	28		310	69	168	21	42	9	1
その他の食品	8		140	36	84	6	13	1	
合計	158	1	2,100	465	1,301	141	146	18	29

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、食肉製品・魚肉ねり製品・そうざいなど97検体211項目でした(表2)。検査の結果、規格基準^{*1}違反はなく、弁当そうざいの衛生規範^{*2}不適が2検体ありました。検査結果については、収去を実施した保健所に報告しました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 収去検査結果

平成28年11～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類加工品				
蒸しだこ	3	3		
ゆでがに	3	9		
魚肉ねり製品	3	3		
肉卵類及びその加工品				
鶏卵	8	8		
加熱後包装食肉製品(ハム・ベーコン等)	7	21		
非加熱食肉製品(生ハム等)	3	12		
包装後加熱食肉製品(ソーセージ)	2	4		
乳及び乳製品				
牛乳	4	8		
ナチュラルチーズ	8	8		
穀類及びその加工品				
生めん	2	6		
菓子類				
洋生菓子	11	33		
粉末清涼飲料(インスタントコーヒー等)	3	6		
飲料				
清涼飲料水	11	11		
その他の食品				
加熱そうざい(煮物等)	21	63		
非加熱そうざい(サラダ等)	3	3	2	細菌数超過 ^{*3}
弁当類(加熱処理品)	3	9		
弁当類(非加熱処理品)	2	4		
合 計	97	211	2	

^{*3} 細菌数 140万/g、130万/g (基準 100万/g以下)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

魚介類中のPCB検査

平成28年6月と10月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、1検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出された値は暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

単位:ppm

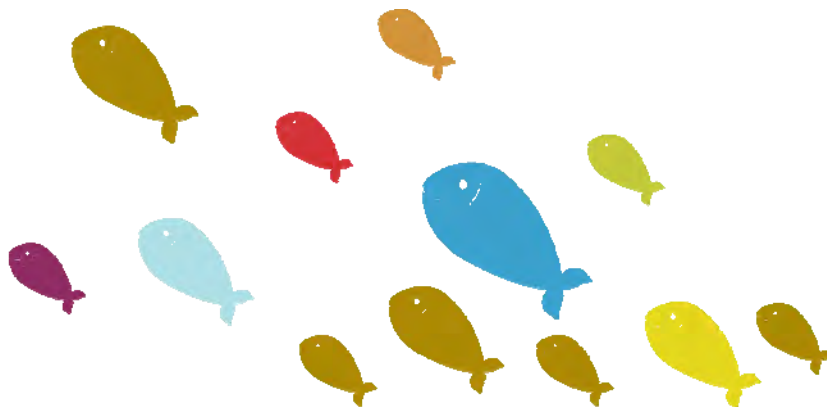
食品の種類		検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類	ヒラメ	1	0	不検出	0.5
	アカカマス	1	1	0.03	
	イトヨリダイ	1	0	不検出	
	ウスメバル	1	0	不検出	
内海内湾魚介類	シログチ(イシモチ)	1	0	不検出	3
	ヒラマサ	1	0	不検出	
	ブリ(イナダ)	1	0	不検出	
	マアジ	2	0	不検出	
	マナガツオ	1	0	不検出	
合 計		10	1	—	—

(検出限界:0.01ppm)

ーアカカマスー

小魚などをえさとする肉食魚で、大きくなると全長50cm程度になります。小さい時には浅い場所に生息し、大きくなると水深100mを超える深い場所に生息します。琉球列島を除く南日本から東シナ海・南シナ海にかけて分布しています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】



横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行警報が発令されました。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

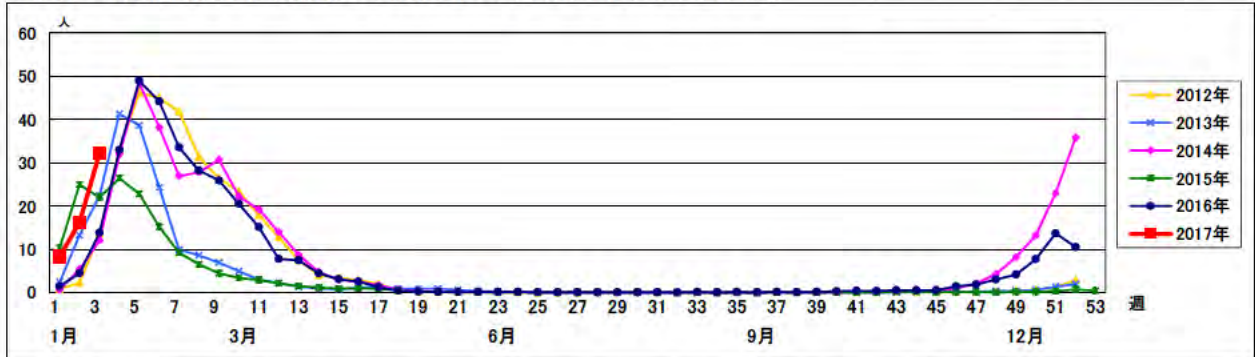
腸管出血性大腸菌感染症	3件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
デング熱	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
アメーバ赤痢	7件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	9件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	破傷風	1件
急性脳炎	2件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が2件(うち1件は無症状病原体保有者)、O26の報告が1件ありました。
- 2 デング熱: 3件の報告があり、1件はタイ、2件はフィリピンでの蚊からの感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 3件の肺炎型の報告がありました。
- 4 アメーバ赤痢: 7件の報告(腸管アメーバ症6件、腸管外アメーバ症1件)がありました。感染経路は、国内での性的接触が2件(異性間1件、詳細不明1件)、国内での経口感染が2件、タイでの経口または同性間性的接触が1件で、感染経路等不明が2件でした。
- 5 ウイルス性肝炎: 1件のC型の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎: 2件の報告があり、病原体不明の幼児が1件、迅速キットでインフルエンザAが判明している30歳代が1件でした。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 家族性CJDの報告が1件ありました。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件が報告され、うち1件がG群で、1件は不明でした。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも性的接触によるもので、AIDSの報告が1件(同性間)、無症状病原体保有者の報告が3件(異性間2件、同性間1件)ありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 14件の報告があり、うち2件の幼児についてはワクチン接種歴が確認されました。12件(30~90歳代)では4件がワクチン接種歴を確認できましたが、8件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 12 梅毒: 9件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性7件、女性2件でした。感染経路は、異性間性的接触が4件、同性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が4件でした。
- 13 破傷風: 1件の報告があり、感染経路等不明です。ワクチン接種歴は確認できませんでした。

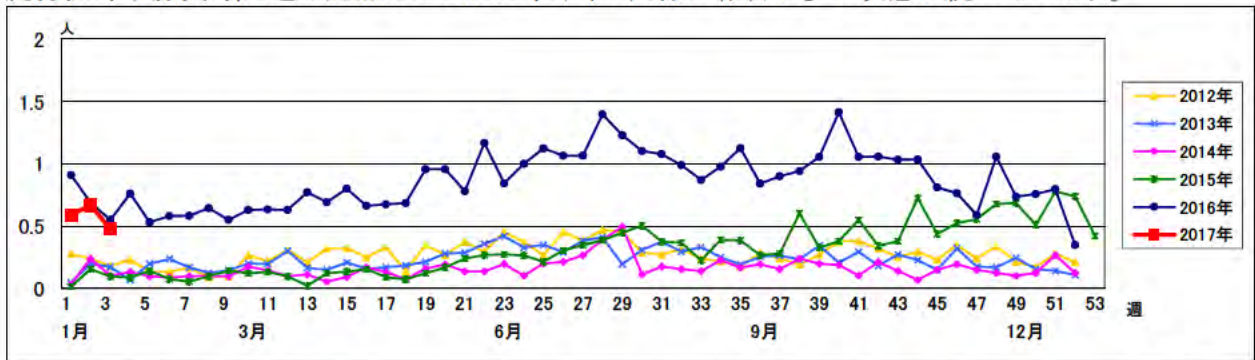
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第51週	12月19日～12月25日
第52週	12月26日～1月1日
第1週	1月2日～1月8日
第2週	1月9日～1月15日
第3週	1月16日～1月22日

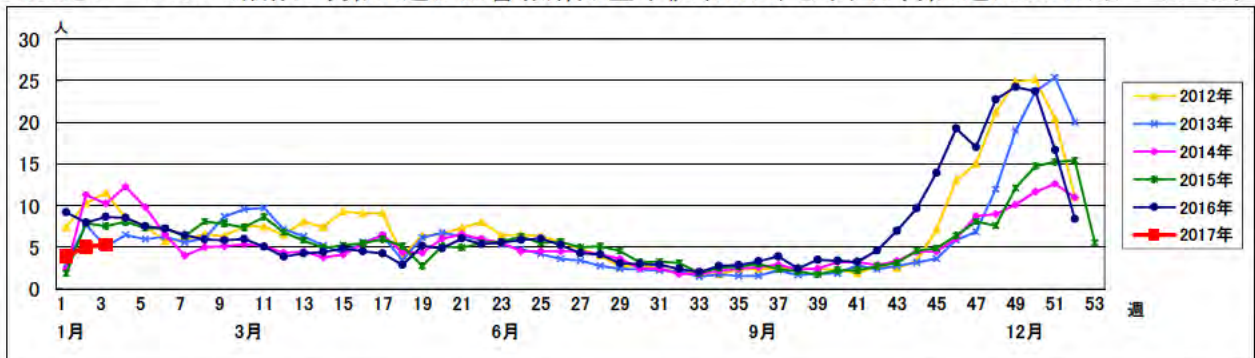
- 1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.39にて流行入り、第51週で13.67にて注意報発令、第3週で32.23にて警報発令となりました。



- 2 流行性耳下腺炎: 第3週で定点あたり0.48と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



- 3 感染性胃腸炎: 第48週で定点あたり22.73となり、例年に比べて早く警報発令されました。第49週の24.24をピークとして漸減し、第52週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第3週は5.31となっています。



- 4 性感染症: 12月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が21件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が7件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が0件でした。
- 5 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第51週0.75、第52週0.00、第1週0.50、第2週1.00、第3週0.33と報告されています。インフルエンザによる入院は第51週4.25、第52週3.67、第1週3.50、第2週3.75、第3週5.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第51週0.00、第52週0.00、第1週0.25、第2週0.33、第3週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が5件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が1件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点24件、眼科定点1件、基幹定点6件でした。

2月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株51件と遺伝子9件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	ア デ ノ 感 染 症 *2	感 染 性 胃 腸 炎	そ の 他 症 例
インフルエンザ AH3型	2	1	43 1			1
インフルエンザ B型ビクトリア系統			2			
アデノ 1型				1		
アデノ 3型	1					
RS		1				
ヒトメタニューモ		2	1			
ヒトコロナ*3		1				
ライノ		1				
ロタ					2	
合計	3	1 5	45 2	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月の感染性胃腸炎は、基幹定点から6件、その他が6件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H-,VT2、O26:H11,VT1、O型別不能:H+,VT1&2)と腸管凝集性大腸菌(O126:H27,aggR)およびサルモネラ属菌(*Salmonella* Schwarzengrund、*Salmonella* Agonaが2件ずつ)が検出されました。

その他の感染症は、基幹定点から2件、その他からが12件でした。その他のB群溶血性レンサ球菌の2株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は*Legionella pneumophila* 1群、肺炎球菌は2件とも15Aでした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

感染性胃腸炎							
検査年月 定点の区別 件数	1月			2017年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
菌種名							
腸管出血性大腸菌		1	3		1	3	
腸管凝集性大腸菌		1			1		
サルモネラ属菌		2	2		2	2	
不検出	0	2	1	0	2	1	
その他の感染症							
検査年月 定点の区別 件数	1月			2017年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
菌種名							
B群溶血性レンサ球菌			2			2	
レジオネラ属菌			1			1	
肺炎球菌			2			2	
結核菌			1			1	
その他		2	4		2	4	
不検出	0	0	2	0	0	2	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年1月の総アクセス数は、136,354件でした。前月に比べ約3%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*179.8%、保健情報7.2%、食品衛生2.2%、検査情報月報1.8%、生活環境衛生1.3%、薬事0.4%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

1月のアクセス順位(表1)を見ると、インフルエンザや感染性胃腸炎に関連する項目が7項目入っており、大半を占めています。

1位は「横浜市感染症情報センター」で、2位には「横浜市インフルエンザ流行情報9号」、3位は「ノロウイルスによる感染性胃腸炎について」でした。感染症関連項目以外では、5位に「大麻(マリファナ)について」が入っています。

表1 平成29年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センター	9,512
2	横浜市インフルエンザ流行情報9号	8,797
3	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	6,658
4	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	6,649
5	大麻(マリファナ)について	6,513
6	横浜市インフルエンザ流行情報8号	5,404
7	感染性胃腸炎の発生状況(2017年1月4日)	4,966
8	衛生研究所トップページ	4,714
9	横浜市インフルエンザ流行情報7号	4,120
10	横浜市インフルエンザ流行情報6号	3,454

データ提供: 市民局広報課

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「横浜市インフルエンザ流行情報9号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2016/rinji09.pdf>

「ノロウイルスによる感染性胃腸炎について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/srsv1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年1月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成29年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
予防接種について	1	感染症・疫学情報課
子どもの定期予防接種ご案内に関する相談について	1	感染症・疫学情報課
MMRワクチンについて	1	感染症・疫学情報課
ブルセラ症について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年1月に追加・更新した主な記事は、19件でした(表3)。

表3 平成29年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月 4日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
1月 4日	スウェーデンのこどもの定期予防接種について	更新
1月 5日	ルーマニアのこどもの定期予防接種について	更新
1月 6日	ギリシャ共和国のこどもの定期予防接種について	更新
1月10日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
1月11日	ニュージーランドのこどもの定期予防接種について	更新
1月12日	韓国のこどもの定期予防接種について	更新
1月13日	台湾のこどもの定期予防接種について	更新
1月16日	アルゼンチンのこどもの定期予防接種について	更新
1月17日	横浜市感染症発生動向調査事業概要 平成27年(2015年)	掲載
1月18日	ブラジルのこどもの定期予防接種について	更新
1月19日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載
1月19日	チリのこどもの定期予防接種について	更新
1月23日	リトアニアのこどもの定期予防接種について	更新
1月25日	スロベニア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
1月26日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
1月26日	クロアチア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
1月31日	ウクライナのこどもの定期予防接種について	更新
1月31日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】